

旭川市市民参加推進会議（令和5年度第2回）会議録

日 時	令和5年8月23日（水） 午後6時30分から午後8時30分まで
場 所	旭川市第二庁舎3階 問診指導室
出席者	委員10人 安住委員，伊藤委員，小松委員，佐藤委員，白川部委員， 谷委員，中込委員，羽藤委員，宮崎委員，宮田委員（50音順） 事務局4人 片岡部長，松山課長，青木主査，麻生
傍聴者	なし
資 料	・資料5 審議会等における女性登用に関する調査（中核市） ・資料5-2 審議会等における女性登用に関する調査（道内人口10万人以上の都市） ・資料5-3 道内主要都市・中核市の女性登用状況一覧 ・資料5-4 道内主要都市・中核市の事例一覧 ・資料6 団体推薦の依頼文 ・資料7 その他

I 会議成立の報告

条例施行規則第19条の規定により，委員の10人が出席したため，会議の成立を報告した。

II 議事

会 長：議事(1)「女性登用に関する調査結果について」事務局に説明をお願いします。

事務局：資料5，資料5-2，資料5-3，資料5-4について，説明。

会 長：前回意見を出していただいた取組をしている自治体が既にあった。ところが，効果を成していないという結果が見えてきた。皆さんから率直な感想や意見を伺う。

委 員：今まで男性女性という意識をして来なかった。クラシック音楽をやっていたので，女性が居ることが当たり前で育った。男性が大多数のところに（少数の）女性が入るとプレッシャーを感じるようになった。また，大雪クリスタルホールのボランティアをしているが，8割女性の方，2割が男性ほどで，女性が多いと男性は尻込みしている。男女比は半々くらいにした方が良い。男女比が半々になると（女

性が) 応募しやすくなると思う。

委員：女性比率を上げる理由について、単に女性比率50%を目標にしているのか。女性の意見が必要で50%に上げたいのか。女性比率を上げるだけであれば、大学生卒を増やせばと思う。しかし、学生目線の意見しか出せない。資料を見る限り（取組が女性比率の上昇には）繋がっていない。託児支援や働いている女性が参加しづらい時間を調整して、かつ、男性への配慮も必要。多くの自治体が取組み、それでも女性が少なければ（別の）方法を考えるべきではないかと思う。

委員：女性のいない審議会等を無くすことを目標に挙げた方が達成が早いと思う。女性優先公募、人材バンク、託児支援は必要ないのではないかと思う。特に託児支援は、費用対効果としていかなものか。

委員：私はPTA 連合会から来ている子どもがいる家庭。小学校の集まり（広報委員会など）で来ていただく方の多くは女性。皆さん子どもが居るのに、夕方の時間に合わせて来ていただける。そうした場には、躊躇なく来られてると思う。こうした場やPTA 連合会となるとハードルが上がるのか、託児の有無はあまり関係ない。不思議であるが、子どもが居ながら行ける場所は身近な場所なのか、市となると女性の目線が変わってくるかもしれない。（会議）時間も19時とか18時半だと、仕事して来たらギリギリ。かと言って日中に会議開催すると働く女性は参加できない。女性男性の比率でいうのであれば、半々で意見を出すことは正しいことだと思う。融通の利くような、子どもが病気になった時など「来ても来れなくても大丈夫だから参加してください。」のような緩やかな運営だと、女性が集まるかもしれない。

委員：事前協議は、女性が増える選択肢だと思う。女性を優先する公募も女性を増やす手法なので有効だと思う。

委員：公募でも任期が参加希望者のタイミングに合わない場合などを考えると、人材バンクで人材確保することが有効かと思う。

委員：人材バンクの基準はあるのか。例えば、消費者協会だと講師の派遣などがあるが、資格を持っている人といった基準がある。

事務局：人材バンクは、自治体毎にやり方が変わる。建築分野の人材、家庭教育分野の人材など（特定の分野に精通し）、かつ、女性を登録する。例えば、建築分野の審議会から「担当が見つけれないのでそういう女性はいないですか。」ということを当課に問い合わせ、居る場合は紹介する。しかし、審議会の担当課から人材の相談があるとい

うことは実際にその分野の人材は見つからず、居たとして紹介してもその方が委員になれる状況かどうかはその時による。多くの人材を確保して、いつ相談があっても提供できる様な人材バンクの充実は難しい。「一定の知識を持った特定の分野の女性」をニーズとして出されると実際に紹介はできない。

委員：託児支援はやる必要はないと思う。人材バンクは、専門分野の人材バンクではなくても審議会に参加したい女性を集める様なものを設置すればある程度効果が出ると思う。

委員：女性を優先する公募がない方が女性が高いことに驚いた。募集の仕方を工夫することで応募者数は変わると思う。資料で旭川市が掲げる女性委員の目標値が高いと感じた。事前協議について（制度の有無に関わらず）調整は大事だと思う。

事務局：事前協議について、強制力をどこまでかけるかによる。事前協議といっても選任結果に対し次回以降改善を求めるのであればさほど効果的ではない。必ず目標を超えなければやり直しとする強制力をかけるかどうか。目標を超えるまで委嘱できないので（女性比率は）上がっていく。事前協議は、導入する自治体で内容が異なり、効果も異なる。また、事前協議を導入していない自治体で女性比率が高い自治体もある。

委員：附属機関等に参加経験がある人が、声掛けし、適任者を紹介することも良いと思う。

委員：審議会の内容によっては男性の意見が欲しい機関、女性の意見が欲しい機関があると思う。女性の立場で言うと、（例えば）ゴミ問題は女の人の意見が男の人よりも細やか。町内会でも市民委員会でも、役員構成は男性が多い。先ほど意見があった紹介は大事だと思う。子育て世帯は、会議参加が難しい時間帯がある。託児支援も大事かもしれないが（何に取組むか）優先順位を付けなければならないと思う。

会長：結果を見て、やっぱりかと感じた部分もあった。そもそも意思があったら皆が（会議に）参加している。関心を持つに至っていない方に「（会議に）出てください。」ということに難しさがある。資料5-3にある取組をすれば解決するわけではないことが調査結果で明らかになった。では、どうするかここで考えなければいけない。

会長：議事(2)「女性登用について」事務局に説明をお願いします。

事務局：資料6、資料7について、説明。

会長：前回の皆様から出していただいた意見に対しての資料になる。資料6右側の参考様式というのが現行の旭川市の（依頼文）ということか。

事務局：そうである。

会 長：団体推薦の依頼文を出す場合、依頼文を別に作ることを想定しているか。

事務局：現行の様式の中に記載することを想定している。

事務局：「こういう風に変えた方が良い」という意見があったら御意見いただきたいという思いで事例をお示しした。

会 長：資料 6，資料 7 について，御質問あるか。

委 員：各委員，質問なし

会 長：資料 7 の方は，事前協議，子育て世帯が参加しやすい会議環境，事務局の意識啓発と前回出た意見についてのまとめや他都市の事例を記載した資料である。最初の議事で説明があったとおり，（取組めば女性比率が）伸びてるわけではない。これを踏まえ，どのように女性参画していくことができるか，各委員意見交流してください。

委 員：意見交流

会 長：意見交流した内容について，発言願います。

委 員：団体推薦の依頼文に関し，これはすごく良い。（女性比率の）目標値を明確に記載することで可視化できる。長期在任の制限について，現行の 6 年から緩和するのは有りかと思う半面，6 年を超えることに疑問も感じる。この会議委員を通算して 6 年目を迎えているが会議の変化は面白い。応募の電子化も必要だと思う。

委 員：団体推薦の依頼文の見直しにより，効果が期待できるかと思う。託児支援について，託児施設を利用した委員に（実費相当額を）手当として支給する仕組みを構築していただきたい。団体推薦の依頼文に託児支援を行っていることを記載し，子育て世帯に周知することも良い。人材バンクについて，公募委員のための人材バンクを作り，人材をキープしておくことも必要だと思う。

委 員：長期在任の制限で現行の 6 年から 12 年の変更に賛成。人が見つけられない中で，長期在任を緩和することは 1 つの手法だと思う。団体推薦依頼文に，「女性登用を推進している」文言があると分かりやすい。現在の依頼文「貴団体の御事情の許す範囲で」という文面は不要だと思う。子育て世帯が参加しやすい会議環境について，託児を設け昼間に開催することも子育て世帯の目線からは有りだと思う。

委 員：女性比率を上げる意味がよく分からない。女性比率を上げることが全てであれば，依頼文を考えれば数値は上がると思う。会議によっては，男性の方が意見し

やすい空気があると思う。優秀な女性がいて、会議で意見を持っていたとしても発言できない性格であれば、審議に参加できない。そうであれば、性別ではなく（会議に適した）人材（だと）と思う。団体推薦依頼文も、目標値や男女共同参画を推進していることが明記されていても、人数合わせかと思う。具体的に「こういう意見を求めているので女性が必要」、「若い人の意見が必要」、「旭川に何年以上住んでる人が必要」など、必要とする人材を集めて、発言しやすい会議環境をつくる方が意味がある。

委員：人材バンクは設置して欲しい。この会議の様に、ざっくばらんに意見を言える機関は他にない。こういう会議であれば、リラックスして参加できる。この会議の男女比だからこそできるもので、一方の性に偏っている場合は、発言しづらいと思う。

会長：これまで女性委員が少ないから（女性割合を）上げていく前提で審議してきたが、一度議論を戻し、根本について考えていただきたい。なぜ女性委員の割合が高くないといけないのか。女性の割合が高くなると何がかわるか考えてみる。現在、男性委員が多い。そこに女性を増やして、半々になったら、男性だけで議論していたものがどう変わるか。

委員：コミュニケーション方法は変わると思う。話の持っていく方が変わる。

委員：男性は男性のコミュニケーション傾向があるという話自体、時代に馴染まない。人口比で男女比は1対1なので、女性比率50%目標で良いと思う。

委員：会議に10人参加者がいれば、10人全員が違う意見を出す方が良いと思う。参加者の構成が一方の性に偏ったら、意見も偏ると思う。男性と女性は5割ずつ居た方がいろんな意見が出て面白い。

委員：私は育児休業を取った。私の母の教員の時代、私を妊娠した時に体調悪くし、その頃は即退職。意識だけではなく、制度でも、実践していかなかったら裾が広がらない。私は当時、地域でも居なかった短時間勤務を利用し、実践していくことで（仕事と）子育てを両立できた。

会長：育児短時間勤務は、現在かなり広がっている。子育ては男女でやるもの、男性の育休も奨励しろと言いながら、嫌がらせをしている会社があるかもしれない。そ

こは意識と社会の変化，あと個々の多様な生き方というところで，このような意見を聞く機会があったら変わるきっかけにはなる。

会 長：コミュニケーションが男女で異なると意見があったが，見えてる範囲が，その意識の有り処がそれぞれ。良いも悪いもなく，生活，立場も違う。だから「こんなこと言ったら間違いだ」ということを考えてはいけない。考えさせないで議論の中で（意見を）出せる様にすることができれば，男女が半数になるっていうことの効果が一番出ると思う。

委 員：介護支援専門員をしているが，利用者や家族から女性の指名が多い。男性職員も半数ぐらい居り，細やかで丁寧な仕事をしているが利用者は女性を希望される。置かれている環境にも影響されるのではないかと思う。

会 長：どうやら介護の現場では，同じ職務ができるのに，希望される性が固定されがちということ。

委 員：（男女で）相手に対する興味やコミュニケーション方法が異なると思う。

会 長：性別の特性的なところで言われることもあるけれど，やはり男女半々いれば色々な意見が出る。

委 員：半々で構成しても，発言できなかつたら意味がないと思う。発言できる環境づくりをしていけば良い。この会議の様な運営にしていけば，良い意見が出ると思う。参考程度に「当会議はこういう運営を行い，良い意見も出る」ということを他の附属機関に言えるのか。

事務局：会議運営については，附属機関を所管する課の考え方がある。この会議は，市民参加の手法を考えてもらう場で，ざっくばらんに御意見をいただき，考えることに適してるが，全ての機関に適するものではない。

委 員：会議に年5回参加して一言も発言しない会議があってもおかしくないということか。

事務局：そういう場合もある。

委 員：どの会議でも参加者が1回は発言するという共通認識を考えるべきなのかと思う。

事務局：会議の性質や議題による。色々な意見が欲しいのか，行政として考えた内容が妥

当かどうかを判断してもらいたいかにより、変わる。提案した内容の妥当性を確認したいのであれば、妥当だと思えばそれ以上に意見を求める会議はない。そうしたところで、一律に会議の運営については語れない。

会 長：市民参加を推進するこの会議は、公募委員がいかに多く参加してもらえるかにかかっている。（この場では）このよう様な会議を前提として考えていただく。もし可能ならば意見書に「当会議はこういう会議であるからこんなやり方をしています。」ということ載せてもいいのではないかと個人的には思う。「ちなみに当会議はこういう趣旨のものなので、参加者の意見が何より大事です。ですからこうした運営してます。」ということ載せて、意見書の読み手が取り入れようかなと思ってもらえて変わるところがあれば、非常に甲斐があること。

委 員：先ほどの育児休暇制度の話のように、実践しないと意識は変わっていかないと思う。（委員構成を男女）半々にして、運用してみる。そこで女性が意見を言うようになれば、育ってくると思う。

委 員：男女比を半々にすれば、仕組みも理解されると思う。

委 員：女性が30%、男性70%の割合を一応50%50%に持っていこうっていう目標ができた。

委 員：市民参加推進会議の次期公募も思った以上に直ぐに始まる。女性の応募を得るための方法について、考えていければと思う。

会 長：本日の審議は以上とする。